

平成28年度創立45周年記念研修大会分科会について（お知らせ）

【第1分科会】キャリア教育

テーマ：「志を育成するキャリア教育」～課題解決から探究に向かう力を育てる～

実践発表

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------|
| (1) 「文部科学大臣表彰を受賞して」 | 発表者 川崎 謙一郎（福岡県立若松商業高等学校） |
| (2) 「第21回創志塾体験ツアー」研修及び実践報告～「志」を巡る旅～ | 発表者 小塩 豊美（福岡県立ありあけ新世高等学校） |
| (3) 「未定」 | 発表者 福泉 亮（福岡県立小倉高等学校） |
| 助言者 下田 浩一（福岡県立城南高等学校主幹教諭） | 宮原 清氏（福岡県立福岡魁誠高等学校教頭） |

「自発的に課題を発見し、創造的に取り組む人材」、「課題探究力を有する人材」を育成するのに何が必要であるのか。その一つとして「志」が重要なのではないかと考える。「志」は漠然ととらえられがちであるが、それを導く戦略的方策も必要だ。課題解決を探究に深めさせることそのものが「志」とも言える。3人の発表をヒントに、生徒の「志」を育む教育展開を多くの学校で実態に合った形で行うようにするための提言を行う。

【第2分科会】生命倫理

テーマ：「いのちの授業を考える」

実践発表

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| (1) 『『それをお金で買いますか?』の授業実践』 | 発表者 久家 光晴（私立明治学園中学高等学校） |
| (2) 「卵子凍結は是か非か」 | 発表者 跡部 弘美（福岡県立福岡高等学校） |
| (3) 「環境保全のあり方を考える」生物基礎（1年） | 発表者 新地 祐子（福岡県立柏陵高等学校） |
| (4) 「生徒が自立する”質問づくり”の授業」 | 発表者 川津 真吾（福岡県立北筑高等学校） |
- 助言者 嶺岸 勝文氏（帝京大学福岡医療技術学部）

これまで遺伝子多様性をいかに考えていくかをテーマに研修を積み重ねてきた。生命というものの捉え方は今までの生きてきた環境や経験によって異なり、教師があらかじめ準備した答えに到達させることが目的ではなく、生徒一人ひとりが自分の心の中にいのちに関する倫理観を育てることが大切である。そのためにも、生徒自身が主体的・能動的にいのちについての考えを深めていこうとする姿勢が必要である。今年は、昨年からのアクティブ・ラーニングの手法を使った授業実践によるいのちの授業の積み重ねを紹介する。

【第3分科会】特別支援教育

テーマ：「生徒の進路実現を目指して」

実践発表

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| (1) 「特別支援学校（知的障害）高等部の就労支援」 | 発表者 寺本 真一 （福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」） |
| (2) 「生徒の進路実現を目指して」 | 発表者 田中 一嘉（福岡県立福岡高等聴覚支援学校） |
| (3) 『「私にもできた!」可能性が広がる作業学習（福祉コース）の取組』 | 発表者 小屋松 淳（福岡県立小郡特別支援学校） |

本年度の活動スローガンは「つなぐ～特別だけど特別じゃない支援教育～」。縦、横に「志」のネットワークを広げていく。さらには、特別支援教育は専門性に根ざした「特別」なものである一方で、つきつめれば生徒一人ひとりの実態によりふさわしい指導を追い求める工夫の積み重ねであり、決して「特別」なものではなく、校種を超えた普遍性を持つ。進めてきた研究の成果である「ネットワーク関係図」を踏まえ、学校教育がいかにその役割を果たすことができるのか、障害特性、発達段階に応じた具体的な実践に学び合うことにした。

【第4分科会】学校活性化

テーマ：「魅力ある学校づくり」～活性化を目指して～

実践発表

(1) 「魅力ある学校づくり」～活性化を目指して

発表者 藤野 英二 (福岡県立早良高等学校)

(2) 「北高改革の挑戦」

発表者 待鳥 睦美 (福岡県立大牟田北高等学校)

助言者 長 俊一 氏 (福岡県立明善高等学校校長)

本年度6月の青年部研修会において、「学校の特色化・活性化を提案しよう」をテーマに協議したなかで、『学校ごとに状況が異なるため統一的な手だてが少なく、独自の取り組みが必要であるが、担当職員、チームだけでは中学校訪問以外に有効な手だてはないといった行き詰まり)を迎えていることが多い。』といった課題が見えてきた。そのため、各学校の課題解決に向けての方策、学校の魅力を高める手だてなどについて協議する場として本テーマを設定した。

【第5分科会】中高連携

テーマ：「中学校の教育実践から中高連携を考える」

～アクティブ・ラーニングを成立させる条件～

実践発表

(1) 「アクティブ・ラーニングの本質」

発表者 三宅 奈保子 (久山町立久山中学校)

(2) 「特別支援教育におけるアクティブ・ラーニングの挑戦」

発表者 岩橋 徹 (糸島市立前原西中学校)

協議コーディネーター 井上 勝洋 (福岡県立玄界高等学校教諭)

中学校では、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善が進んでおり、各学校では、それぞれ研究テーマを設定し、授業公開を行うなど研鑽に励んでいる。しかし、中学校による格差があり、高等学校に接続する際、「主体的・対話的で深い学び」が比較的可能である生徒と困難な生徒が混在するのが現状である。このような多様な状況の生徒に対して、高等学校の教師はどのように対応したら良いのか。義務教育段階の学習課題に応じて学び直しも必要とされる中、中学校の実践をもとに中高連携を考えたい。

【第6分科会】教育の情報化

テーマ：「校務の情報化と授業の情報化についてアイデアを共有する」

実践発表

(1) 「本校における校務の情報化について」

発表者 平嶋 浩明 (福岡県立八女高等学校)

(2) 「ICTを利活用し、かつクラシカルに」

発表者 倉光 浩二 (福岡県立修猷館高等学校)

助言者 中村 俊之 (福岡県立伝習館高等学校主幹教諭)

文部科学省は教育の情報化を①情報教育、②教科指導における情報通信技術の活用、③校務の情報化という3つの側面を示している。まず、時に曖昧な用いられ方をする「教育の情報化」という言葉の概念の共通理解を図りたい。その上で文部科学省が提起する3つの側面のうち、今回は教科指導における情報通信技術の活用と校務の情報化の2つについて実践発表を行い、意見交換や指導・助言を経た上でアイデアを共有していきたい。